

## 時事文翻訳添削ノートから

私は毎年授業で時事文翻訳の添削を行っています。翻訳に挑む学生さんたちに具体的な事例に沿って役に立つ情報をご紹介します。

### 情報 25

最初の文に、「矢野浩二，大阪人。」とあります。何処にも動詞がありませんが、既に学生諸君が習ったように、出身地を言うときは、動詞“是”は省略可能で、入れれば、確認の気持ちが強くなります。同様に“是”を省略できる文として、「年齢や年月日曜日を言う場合もそうだ」、と教科書には記載されています。

これを更に敷衍して、「数量述語文では“是”が省略可能だ」ということを覚えましょう。時事文では“是”の変わりによく“为”を用いますが、同様です。

例えば、第9課(P50)に“同意拆迁的为2451票。”とありますが、この文は“同意拆迁的2451票。とも言えるのです。

### 情報 26

P76の6行目に、“会不喜欢他”があります。

初級の教科書で「出来る」という意味での“会”が最初に出てきて強い印象を与えるので、皆さんそれが頭に染み付いていますが、“会”の使用例は大半が「(きっと)～するはずだ」という必然的可能性を表します。

ですから“会吗?”「まじ?”“不会吧”「ウッソー」と使うのです。